

■ 概況

9/21～9/27のNYMEX・WTI先物市場は89.63～93.68ドルの範囲で推移した。

9月28日は、前日までの高値による高値警戒感と利益確定売りで、3日ぶりに反落した。引き続き、欧米の金利引き上げへの警戒感も低下要因であったが、依然として先行きの需給ひっ迫感が下値を支えた。11月物終値は前日比1.97ドル安の91.71ドル。

週末29日は、利益確定売りが続き、続落した。米国で暫定予算の合意が遅れ、政府閉鎖の懸念が出ていることも値下がり要因。需給ひっ迫懸念が高まる中、10月4日開催のOPECプラス合同閣僚監視委員会(JMMC、WEB開催)の行方が注目されている。11月物終値は同0.92ドル安の90.79ドル。

週明け10月2日は、米国の9月の非製造業景況指数が改善、米国景気の底堅さが示されたが、そのため、逆に、金融引き締め・金利引き上げの継続・長期化が意識され、3営業日続落した。11月物終値は同1.97ドル安の88.82ドル。

3日は、翌日のOPECプラス会合、米国在庫統計発表を前に、持ち高調整の買いや前日までの安値の反動、また、OPECプラス会合で、サウジ・ロシアの自主減産等を含め、現行減産体制維持を合意するとの観測から、4日ぶりに反落した。ただ、米国長期金利の高止まり、ドル高進行に伴う原油先物の割高感もあり、上値は重かった。11月物終値は、前日比0.41ドル高の89.23ドル。

4日は、この日発表の米国石油在庫統計で、原油在庫は前週比220万バレル減であったが、ガソリン在庫は同650万バレル増と急増、さらに先物原油の受け渡し点であるオクラ

ホマ州クッシングの原油貯蔵も急増、米国内の石油需給の緩和を示し、大幅に反落した。なお、OPECプラス合同閣僚監視委員会(JMMC)が開催され、サウジの追加自主減産、ロシアの自主石油輸出削減を含め、現行協調減産の維持を決めたが、事前予想通り、織り込み済みとして影響はなかった模様。11月物終値は前日比5.01ドル安の84.22ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、9月21日～27日の間、92.80～94.40ドルの範囲で推移。9月28日96.20ドル、29日94.20ドル、10月2日92.90ドル、3日90.70ドル、4日91.10ドル。

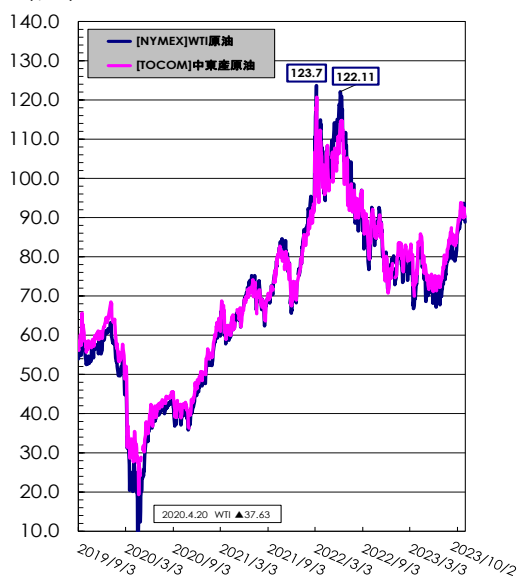
対ドル為替レート(TTM)は、9月21日～27日の間、147.67～149.08円の範囲で推移。9月28日149.65円、29日149.58円、10月2日149.79円、3日149.92円、4日149.30円。

そのような中で、10月2日時点の価格は、ガソリンが前週比1.2円の値下がり、軽油も同1.1円の値下がり、灯油は同13円の値下がり(18リットルベース)。ガソリン・灯油・軽油ともには4週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は179.3円となった。

10月5日から燃料油価格激変緩和補助金は一段と拡充され、10月5日～11日の補助金の支給額は37.6円(従来ベースの補助額44.4円、17円以下部分は60%支給で10.2円、17円を超える部分は100%支給で32.1円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/24～9/30	2,781 ▲30	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.0 ▲0.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/30	11,310 ▲486	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/2	90.23 ▼-0.38	▲ 6.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/2	88.82 ▼-0.86	▲ 5.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	84.28 ▲0.86	▼ -26.58
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	77,221 ▲1,565	▼ -20,350
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	145.68 ▼-1.49	▼ -5.75
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/2	150.79 ▼-1.29	▼ -4.90

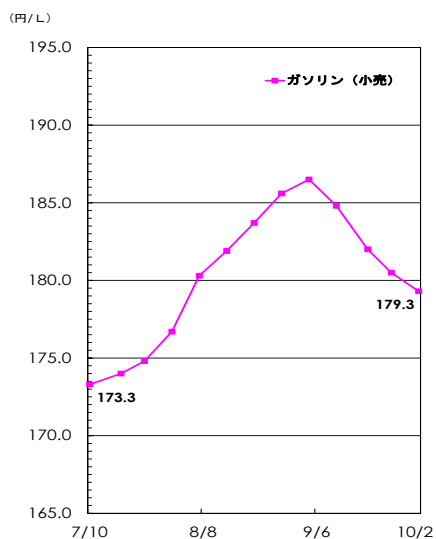
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/24 ~ 9/30	807 ▼ -89 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	586 ▼ -241 ▼ -	
	輸出	"	96 ▼ -46 ▲ -	
	在庫	9/30	1,675 ▲ 125 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/26 ~ 10/2	79.4 ▼ -2.0 ▲ 5.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/26 ~ 10/2	83.8 ▼ -6.2 ▲ 5.6
		(TOCOM/中部)	10/2	78.5 → 0.0 ▲ 5.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/2	179.3 ▼ -1.2 ▲ 10.2	

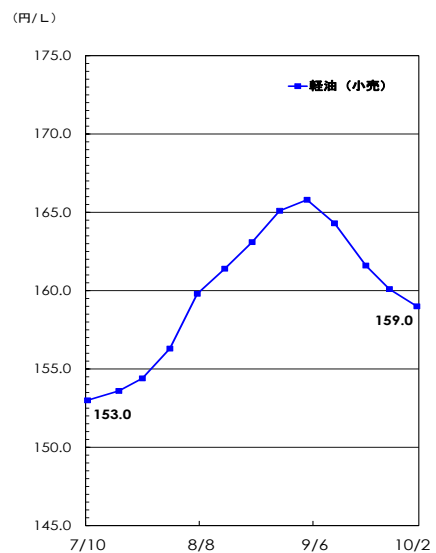
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

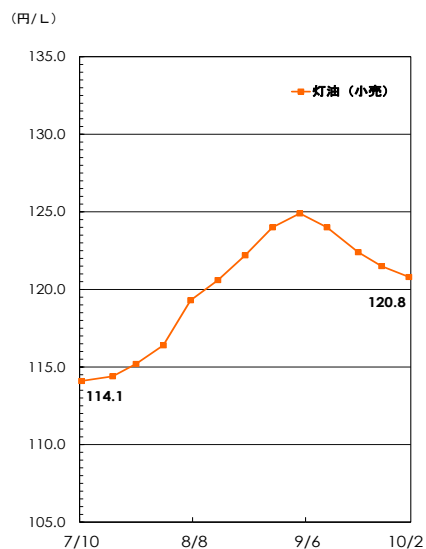
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/24 ~ 9/30	721 ▲ 38 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	578 ▲ 46 ▼ -	
	輸出	"	198 ▲ 81 ▼ -	
	在庫	9/30	1,320 ▼ -55 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/26 ~ 10/2	77.4 ▼ -2.2 ▲ 1.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/26 ~ 10/2	83.4 ▼ -1.7 ▲ 6.1
		(TOCOM/中部)	10/2	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/2	159.0 ▼ -1.1 ▲ 10.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/24 ~ 9/30	137 ▼ -88 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	58 ▲ 68 ▼ -	
	輸出	"	39 ▼ -58 ▲ -	
	在庫	9/30	2,755 ▲ 40 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/26 ~ 10/2	77.1 ▼ -2.5 ▲ 0.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/26 ~ 10/2	83.8 ▼ -5.4 ▲ 2.8
		(TOCOM/中部)	10/2	78.0 → 0.0 ▲ 1.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/2	120.8 ▼ -0.7 ▲ 8.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(9月28日～10月4日)のWTI石油先物市場は、28日に91.71ドルで始まり、その後は米国金利引き上げの継続・長期化観測から3営業日続落、88.82ドルまで低下したが、3日はOPECプラスの減産継続観測で上昇、4日はOPECプラス会合の決議は予想通り、米国ガソリン在庫の予想外の急増で大幅反落、84.22ドルで終わった。

10月4日発表の29日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比220万バレル減(市場予想同50万バレル減)だったが、ガソリンが同650万バレル増と急増した。

EIAによると、10月2日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比3.9セント安の1ガロン3.798ドル(151.6円/%)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比0.7セント高と2週ぶりの値上がりの1ガロン4.593ドル(182.7円/%)。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、9月29日時点で、前週比5基減の502基と2週連続の減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年9月24日～9月30日に休止したトッパー能力は33.4万バレル/日で、前週に対して7.7万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は278.1万klと、前週に比べ3.0万kl増加。前年に対しては12.8万klの減少。トッパー稼働率は75.0%と前週に対して0.8ポイントの増加、前年に対しては1.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/10.0%減、ジェット/40.9%増、灯油/39.1%減、軽油/5.6%増、A重油/26.8%増、C重油/32.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は19.8万kl(前週比8.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリンが減少し、その他の油種で増加した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は58.6万kl(対前週29.1%減)と3週振りに減少した。ジェット7.6万kl(対前週119.8%増)、灯油5.8万kl(対前週654.2%増)、軽油57.8万kl(対前週8.7%増)、A重油

16.6万kl(対前週31.4%増)、C重油19.2万kl(対前週41.9%増)。

(単位：千kl)

	今週 (9/24～9/30)	前週 (9/17～9/23)	前週比
ガソリン	586	827	▼ -241 (-29%)
ジェット燃料	76	34	▲ 42 (124%)
灯油	58	-10	▲ 68 (-680%)
軽油	578	532	▲ 46 (9%)
A重油	166	126	▲ 40 (32%)
C重油	192	135	▲ 57 (42%)
合計	1,656	1,644	▲ 12 (1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月30日時点の在庫は軽油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは167.5万kl、前週差12.5万kl増。前年に対しては16.4万kl多い。

灯油は275.5万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては47.2万kl多い。

軽油は132.0万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては9.1万kl多い。

A重油は79.8万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては6.7万kl多い。

C重油は202.5万kl、前週差4.6万kl減。前年に対しては24.3万kl多い。

(単位：千kl)

	今週 (9/30)	前週 (9/23)	前週比
ガソリン	1,675	1,550	▲ 125 (8%)
ジェット燃料	842	807	▲ 35 (4%)
灯油	2,755	2,715	▲ 40 (1%)
軽油	1,320	1,375	▼ -55 (-4%)
A重油	798	794	▲ 4 (1%)
C重油	2,025	2,071	▼ -46 (-2%)
合計	9,415	9,312	▲ 103 (1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月26日～10月2日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも大きな円安で、元売会社の卸価格建値は1.5円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額32.1円を加え、今週の補助金37.6円を差し引いた、10/5～10/11の実質卸価格は4.0円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月26日～10月2日の製品スポット市況は、9月19日～25日平均と比べ、全ての油種・取引で値下がりした。

直近週(9/26～10/2)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/19～9/25)比で、ガソリンは2.0円の値下がり、灯油も2.5円の値下がり、軽油も2.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/26～10/2)に、前週(9/19～9/25)比で、ガソリンは2.7円の値下がり、灯油も2.0円の値下がり、軽油は1.7円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは6.2円の値下がり、灯油も5.4円の値下がり、軽油は1.7円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (9/26～10/2)	前週 (9/19～9/25)	前週比
スポット価格	レギュラー	79.4	81.4	▼ -2.0
	灯油	77.1	79.6	▼ -2.5
	軽油	77.4	79.6	▼ -2.2

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (9/26～10/2)	前週 (9/19～9/25)	前週比
先物価格	レギュラー	83.8	90.0	▼ -6.2
	灯油	83.8	89.2	▼ -5.4
	軽油	83.4	85.1	▼ -1.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/26～10/2実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.0	▼ -6.2	▼ -4.1
灯油	▼ -2.5	▼ -5.4	▼ -3.9
軽油	▼ -2.2	▼ -1.7	▼ -2.0
A重油	▼ -1.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.2円安の179.3円、軽油も1.1円安の159.0円、灯油も18%ペースで13円安の2,174円(1%ペースでは0.7円安の120.8円)。ガソリン・軽油・灯油ともに4週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは山形県、横ばいは高知県と長野県、値下がり44都道府県だった。全国最安値は北海道の172.5円、その次は徳島県の172.9円であった。他方、最高値は長崎県の189.6円だった。最も値下がりしたのは沖縄県(同3.4円安)、最も値上がりしたのは山形県(同0.3円高)だった。

次回調査時(10/10)のガソリンの小売価格は、値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (10/2)	前週 (9/25)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	179.3	180.5	▼ -1.2	23/9/4 186.5
	灯油	120.8	121.5	▼ -0.7	08/8/11 132.1
	軽油	159.0	160.1	▼ -1.1	08/8/4 167.4

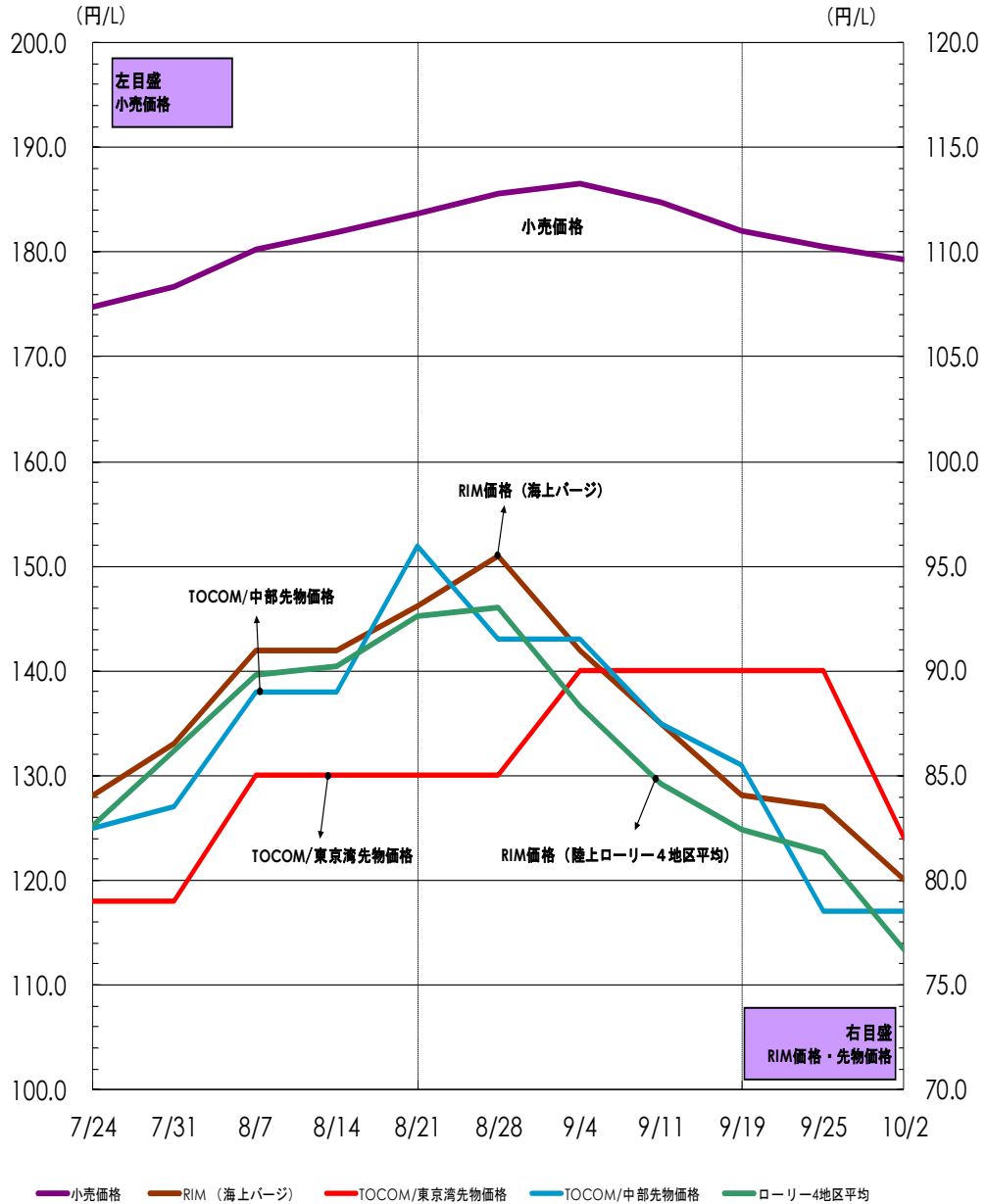
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/7/24 ~ 2023/10/2)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第26号)の公表は、10/13(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。